

ノウフク・アワード2023応募用紙(記入例)

1. 応募者の概要(必須)	
名称	(ふりがな)しゃかいふくしほうじん しゅうろうけいぞくしえんぴーがたじぎょうしょうのうふく 社会福祉法人農福会 就労継続支援 B 型事業所ノウフク
所在地 (市町村名まで)	〇〇県△△市
取組主体	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 農林水産業経営体 <input type="checkbox"/> 農林水産業関係団体 <input type="checkbox"/> 一般社団法人 <input checked="" type="checkbox"/> 社会福祉法人 <input type="checkbox"/> NPO 法人 <input type="checkbox"/> 特例子会社 <input type="checkbox"/> 地方自治体 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> その他()
設立年月日	(西暦) 2013 年3月 (設立 11 年目)
農福連携開始年月日	(西暦) 2015 年4月 (開始9年目)
取り組んでいる事業	<input checked="" type="checkbox"/> 農業 <input type="checkbox"/> 林業 <input type="checkbox"/> 水産業 <input type="checkbox"/> 加工業 <input type="checkbox"/> 就労継続支援 A 型 <input checked="" type="checkbox"/> 就労継続支援 B 型 <input type="checkbox"/> 就労移行支援 <input type="checkbox"/> 生活介護 <input type="checkbox"/> 放課後等デイサービス <input type="checkbox"/> 高齢者介護 <input type="checkbox"/> 中間支援 <input checked="" type="checkbox"/> その他(カフェ)
農福連携の体系図	社会福祉法人農福会 <ul style="list-style-type: none"> — 多機能事業所〇〇会 — グループホーム〇〇 — 就労継続支援 B 型事業所ノウフク — カフェ〇〇
認定・取得済みの認証等	<input checked="" type="checkbox"/> 認定農業者(認定新規就農者を含む) <input type="checkbox"/> 6次産業化認定事業者 <input checked="" type="checkbox"/> ノウフク JAS <input type="checkbox"/> 有機 JAS <input type="checkbox"/> GGAP <input type="checkbox"/> JGAP <input type="checkbox"/> その他の GAP <input type="checkbox"/> その他()

2. 活動のきっかけ(必須) ※200 文字程度で記入してください。
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 企業等からの下請け業務が減少していたところ、農業に取り組んで工賃向上を図っている福祉サービス事業所のことを知り、障害者の就労の安定化や工賃向上などを目的に新たな働き場所として農業を検討。 ◆ JA や市役所に農地の取得等について相談したところ、事業所から1km離れた場所に 30a の農地を借りることができたことから農業に参入。 ◆ 手探りで始めた農業であったが、JA の紹介で近隣の高齢農家から農業指導を受けることができ、安定した生産ができるようになった。

3. 取組の具体的内容及び成果(効果)(必須)
※審査基準である①人を耕す、②地域を耕す、③未来を耕すについて、活動内容、時期及びその成果(効果)をそれぞれ 400 字程度で記入してください。(審査基準 URL:)
① 人を耕す(工賃や賃金の向上に対する取組、障害者等が管理者や責任者などにステップアップしている事例、一般就労につながった事例、農作業中等の安全管理や健康管理の取組、多様な人々が働くことができる職場環境の創出に関する取組等について記載してください)
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 知的障害者、精神障害者に加え、ひきこもりの方、25 名で農作業などに取り組んでおり、取組が理解されるようになったことで、地域の高齢農家などから新たに農地借りて、農地面積は1.2ha まで拡大したことで収益が向上し、県平均を大きく上回る月4万円の工賃を実現した者もいる。 ◆ 障害者1名が、地域内の農業法人に就職している。また、リーダー制度を設け、リーダーに昇格した場合、工賃にも差を設けるなどにより、責任感、やりがいを持って仕事ができるように工夫している。 ◆ 障害者の体調管理には気を配り、真夏の炎天下の作業では、ほ場内に簡易の休憩所を設営し、熱中症対策に努めているほか、その人の適性に合った作業を選定し、徐々に難易度の高い作業に取り組んでもらうことで障害者のスキルアップを図っている。

<ul style="list-style-type: none"> ◆ 事業所近くにグループホームを開設し、10 名が入居しているが、近隣住民の障害者に対する理解が深まり、公園の掃除や草刈りなどを依頼されるなど、新たな交流が始まっている。 ◆ 2020 年に農林水産省の交付金を活用してカフェを整備したことで、周年作業を確保でき工賃も向上した。
<p>② 地域を耕す(農福連携を通じた収益性・生産性の向上、地域の伝統野菜や伝統技術の継承、荒廃農地や遊休農地等の解消、地域の祭りやイベントへの参加、直売所やレストラン・カフェの開業、農作業体験や収穫体験などの開催、地域内の異業種との連携等について記載してください)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 荒廃農地や地域の高齢農家の農地の受け手となって、規模拡大を図っているほか、認定農業者の認定を受け、JAの組合員にもなったことから、地域の中心的な担い手として位置付けられており、地域農業の維持に貢献している。 ◆ 高齢農家に出向いて農作業の手伝いを行っているほか、水路や農道の掃除や草刈りにも積極的に参加しており、地域からは障害者に対する理解が深まり信頼される立場となっている。 ◆ 地域の祭りや運動会などのイベントにも積極的に参加しているほか、近隣の幼稚園や小学校と連携して農業体験を実施するなどの地域交流を行っている。 ◆ 自農園の農産物や地域の農家の規格外野菜を活用したカフェを開業し、地域の農家の収益向上に貢献しているほか、地域内外から訪れる人が多くなり、地域の活性化に貢献している。
<p>③ 未来を耕す(先進性・独自性・話題性のある取組、これから農福連携に取り組む団体等の参考となる取組、地域外の異業種との連携、ノウハウ商品の付加価値向上に関する取組、障害者等の目線で農作業の内容を見直すことで作業の効率化につながった事例等について記載してください)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 農福連携に取り組んだことにより、県外からも多くの方が視察に訪れるようになったほか、農福連携に取り組みたい方向けのセミナー等で講師を務める機会が増えた。 ◆ 農福連携の取組に興味をもった地域外のレストランやスーパーなどからも当事業所の農産物を扱いたいといった申し出があり、販路が拡大している。 ◆ 障害のある子供を持つ親御さんから、ここの事業所でうちの子供を働かせてほしいといった要望も多く寄せられており、事業の拡大を検討しているところである。 ◆ ノウフク JAS の取得で農産物に対する付加価値が増し、商談会を通じて販路の拡大につながった。今後は GAP の取得も検討している。

<p>4. 活動実績(必須) ※「項目」は、農地面積、荒廃農地の解消、売上高、障害者等の工賃や賃金、農作業に関わる障害者数、交流人口等、取組実績がわかるものについて、項目ごとに取組当初時と直近5年間の推移を表形式で記入してください。</p>								
項目	単位	取組当初	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 (見込み)
利用者	人	20	22	22	22	24	25	25
特記事項(任意): 農福連携の拡大により利用者数が増加								
月額平均工賃	円	12,000	13,500	14,000	15,000	15,500	20,000	20,000
特記事項(任意): 令和3年度に平均工賃が県平均を上回った。								
農地面積	a	30	50	50	70	100	120	120
特記事項(任意): 荒廃農地、高齢農家からの借り受けにより農地面積は当初の4倍に増加								
農業年間収入	万円	100	300	400	600	800	1,000	1,000
特記事項(任意): 農業収入は着実に増加								
カフェ年間収入	万円	0	0	0	※50	※300	500	500
特記事項(任意): 農山漁村振興交付金でカフェを整備。地域交流の拠点となりつつある。								

※COVID-19 を原因として減少または減少となる見込みである場合は、実績値に「※」を記入してください。また、COVID-19 関連で実績に影響がある場合は、「3. 取組の具体的内容及び成果(効果)」に影響を踏まえた対応や工夫を記入してください。

5. 活動の主な変遷(必須) ※活動の主な変遷について記入してください。

取組当初	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 (見込み)
30aの農地を借り農業を開始	農地面積を50aに拡大し、水稻栽培を開始	収益が向上し、農業収入は400万円に増加	農山漁村振興交付金でカフェを整備農業体験を開始	農地面積は100aにまで拡大し、認定農業者として認定	農業収入とカフェ収入で収益が大幅に増加。平均工賃は県平均を大きく上回る	前年度と同様の収益が得られる見込み。新たに農産物加工に取り組む予定

6. 今後の展開方向(必須) ※200字程度で箇条書きにて記入してください。

- ◆ 収入の安定や利用者の周年就労を目指して、農産物加工に取り組み付加価値の向上に取り組むほか、農業ハウスを新設して、いちご栽培に取り組み、いちご狩りが行なえる観光農園とする予定である。
- ◆ 高齢農家から農地を借りてほしいといった要望が多いことから、農地面積の拡大にあわせて就労継続支援A型事業所の開設を計画している。
- ◆ 近隣の特別支援学校と連携して、農業体験を行うなど、卒業生の進路の一つとして、農業を選択してもらえる環境づくりをしたいと考えている。

7. 取組内容がわかる写真等(必須)

※写真、図表等を貼付し、20文字程度で説明を記入してください。取組内容を代表する写真を必ず3枚以上貼付してください。

※第三者の肖像権、著作権、プライバシー等を侵害することのないように十分注意してください。

※写真等を貼り付ける際は圧縮するなどして、Wordのファイルサイズが5MB以下となるようにしてください。

--	--

